

社会福祉法人誠和 事業報告

➤ 事業報告概要

当年度は、第8期介護保険改正初年度ということもあり、介護保険改正内容に対応できる体制づくりの年度となりました。介護保険改正内容には、昨今の新型コロナウイルス感染症や災害等に伴い「感染症や災害への対応強化」が盛り込まれ、日頃からの備えと業務継続にむけた取組みの推進のため、事業継続計画（BCP）の策定や研修やシミュレーション等の訓練の実施が義務付けられました。介護報酬においては、栄養士配置基準の変更、看取り体制の整備、テクノロジー導入、LIFEの運用など改正項目が多く、事務負担が増大することとなりました。

感染症においては、8月27日岡山県で緊急事態宣言が発令されました。9月1日にキラリあじさいが開所を迎えることとなり、見学会も十分なものができませんでした。年末からは、全国的なオミクロン株の猛威により、年が明けても感染拡大は続き、ワクチン接種をしていない若い世代の感染者の増加が顕著となりました。岡山県も1月27日は蔓延防止が発令されましたが、当法人において1月29日にはデイサービスでの感染者の発生を受け、1週間休館することにもなりました。面会やボランティアの受入制限などが継続していることから、家族や地域住民との関わり方も課題となってきました。

運営面におきましては、全体的に新型コロナウイルス感染症による利用控えや入退院制限などの影響も受けることとなりました。利用者の重度化が入退院や看取りの増加に繋がり、空床期間が増加したことも伸び悩んだ結果となりました。また、在宅サービスの利用者、なかでもデイサービスの利用者の減少の影響が大きかった1年となりました。年度末の待機者調査や市内のサービス事業所の状況などからも利用者の確保に今後の大きな課題が見えてきました。保育所におきましては、9月にキラリがオープンしましたが、児童の利用だけでなく、介護職員や保育士の確保にも繋がりました。

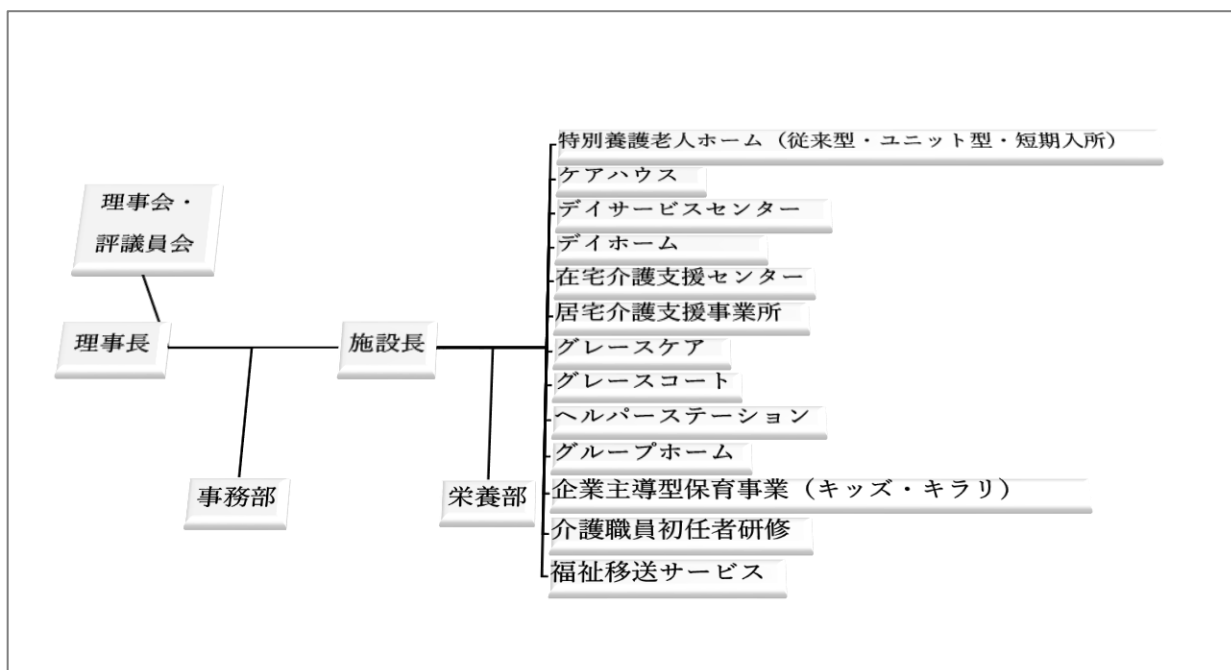
新型コロナウイルス感染症は、スタッフの疲弊や利用者のサービスの質にも影響しており、引き続きスタッフのワークライフバランス、生産性の向上、家族等の外部との関わりを強化していくことが重要であると考えております。

➤ 重点取り組み事項

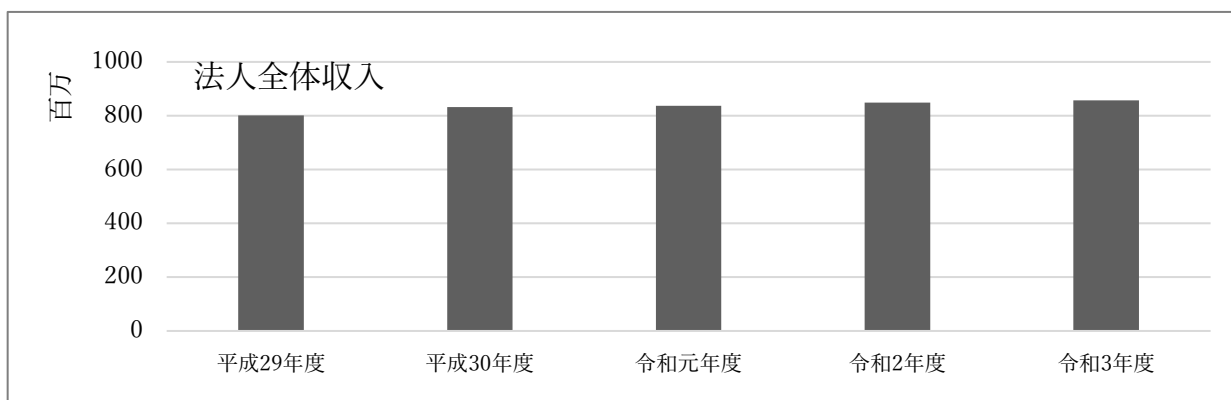
感染対策の徹底とIoT（Internet of Things）の推進により組織全体の生産性の向上と人員不足の解消に努め、職員のやりがいのある環境を整えることとする。そして、利用者、家族等から選ばれるサービス提供に努め、利用者の自己決定を促し、自己実現に向けたその人らしい生活の支援に努めていくこととする。

- 1）感染対策を講じたサービス提供の工夫・充実に努める。
- 2）ガバナンスの強化に努めながら、加算取得による収益増を図る。
- 3）IoT、多職種連携や介護助手の配置、外国人労働者配置による業務プロセスの効率化を図る。
- 4）介護機器や福祉用具を活用し、「抱えない介護」を推進し、腰痛予防等介護負担軽減に努める。
- 5）ホームページ等を通じて魅力ある生活環境、職場環境等の情報発信や関係機関担当者との連携の強化を図る。
- 6）企業主導型保育事業の増設に伴い、既存事業所の業務見直しを図り、関係機関との連携にも努めながら適切な運営を行う。

➤ 組織図



➤ 法人全体収入



➤ 事業所別取り組み事項

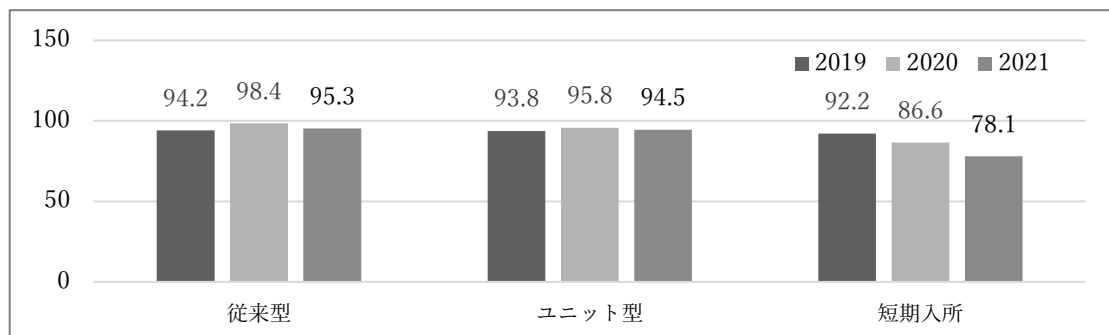
1. 社会福祉事業

① 特別養護老人ホームあじさいのおか牛窓（従来型・ユニット型・短期入所）

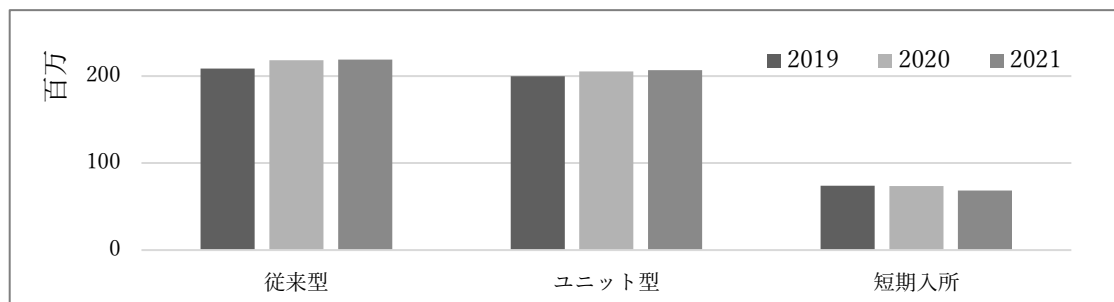
昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響にて、様々な行事等の縮小や家族の面会も制限がかかる中、今まで取り組んできた IoT 化によりオンライン面会や会議などに対応してきました。人員不足や感染症対策によるスタッフの負担軽減のため、業務プロセスの効率化、多職種協働、専門職以外（介護助手等）の人材確保にも努めてまいりました。介護助手の充足や多職種連携が、介護職員の人員不足の解消の一助になったと考えております。稼働率は入退所の増加や新型コロナウイルス感染症の影響にて、昨年度よりも悪化傾向となりました。

特養全体としては、利用年齢幅が広がり、ユニット型は高齢化が顕著、年度内の入退所が例年以上に多い年度となりました。新規入所者には、岡山市が保険者であるケースが増加傾向となっております。

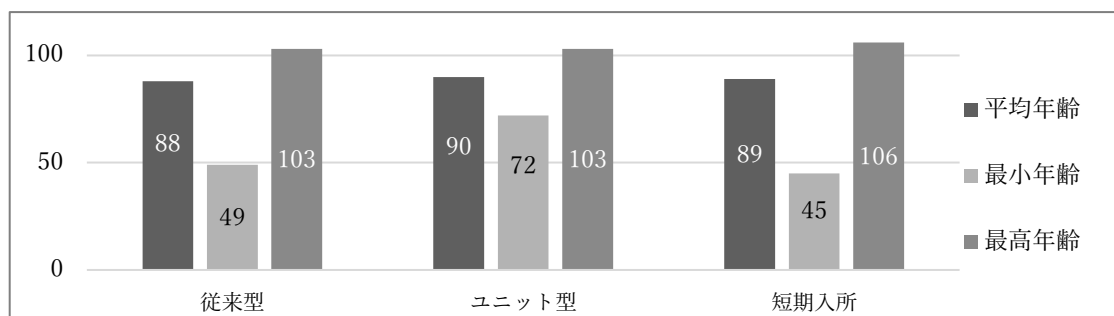
● 稼働率（従来型・ユニット型・短期入所）



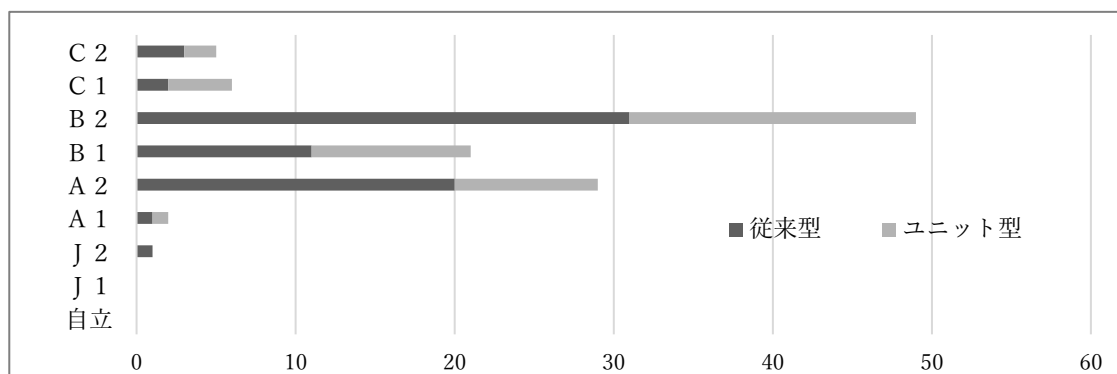
● 収入（従来型・ユニット型・短期入所）



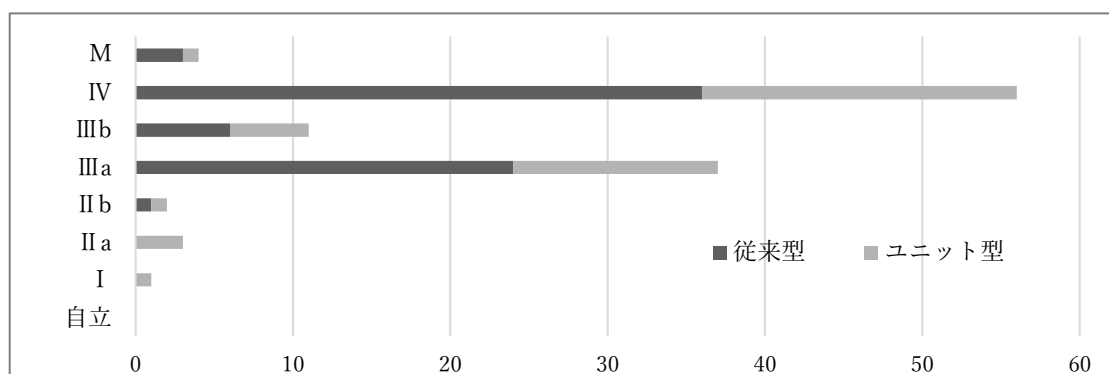
● 年齢（従来型・ユニット型・短期入所）



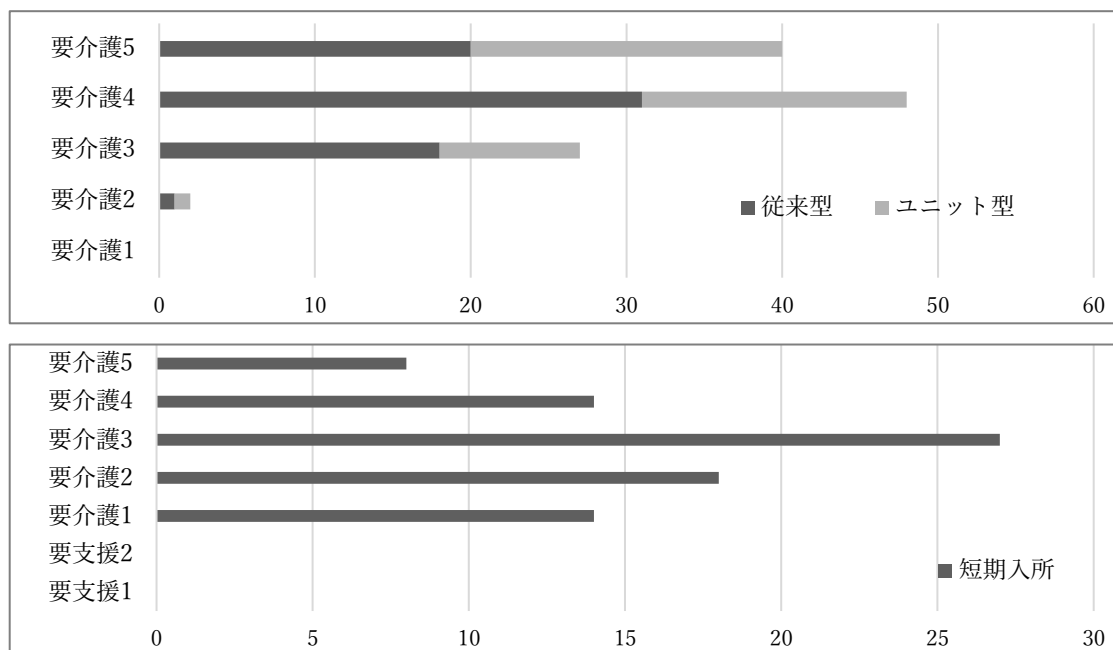
● 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）



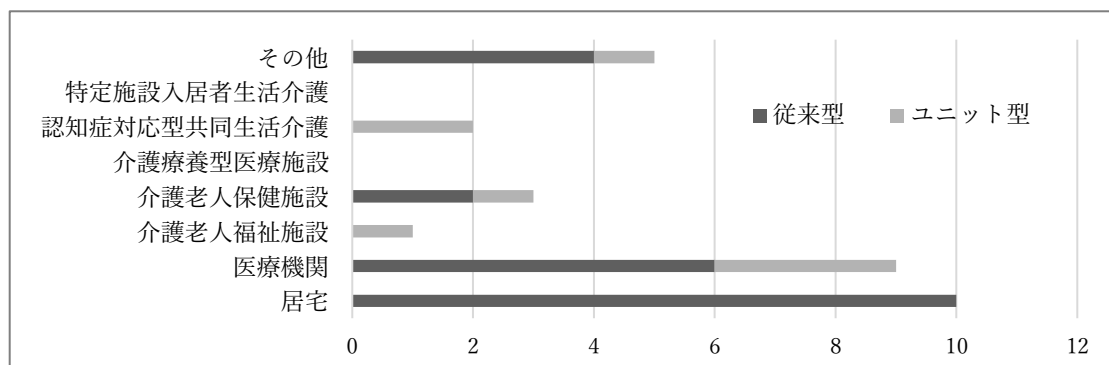
● 認知症高齢者の日常生活自立度



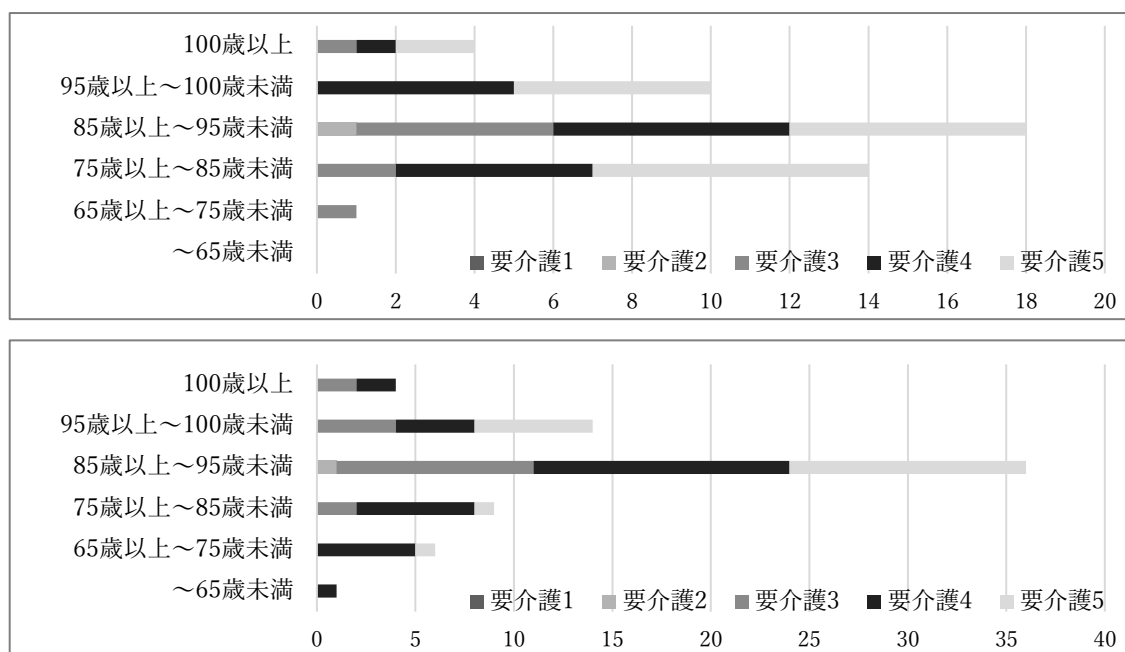
● 介護区分別 延利用者数（従来型・ユニット型 [上]・短期入所 [下]）

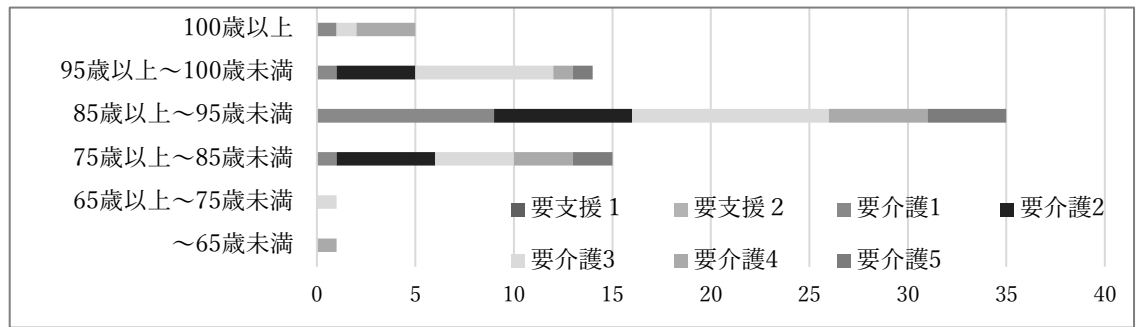


● 新規入所者入所前状況（従来型・ユニット型）

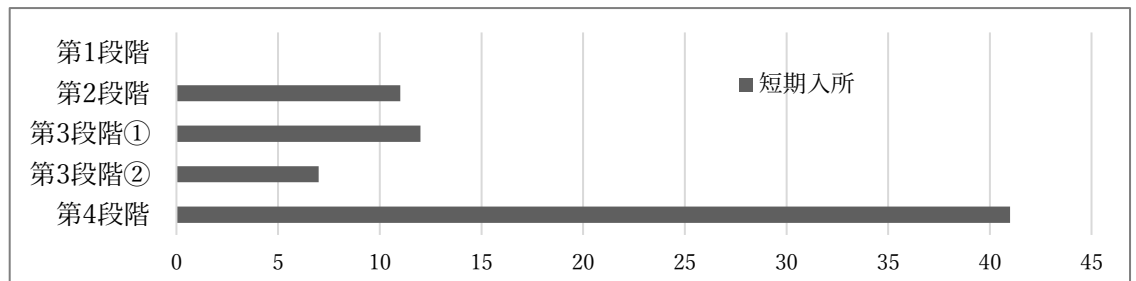
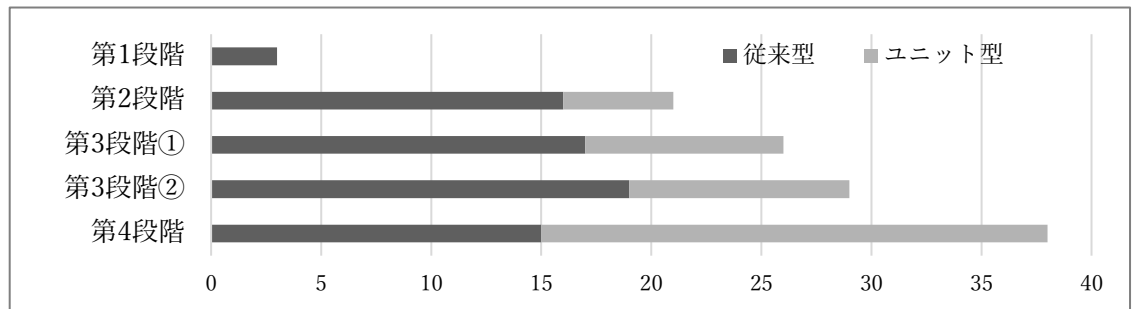


● 年齢別 要介護状態区分別 利用者数（従来型 [上]・ユニット型 [中]・短期入所 [下]）

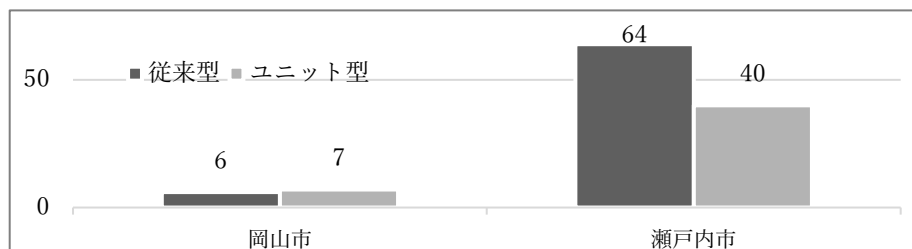




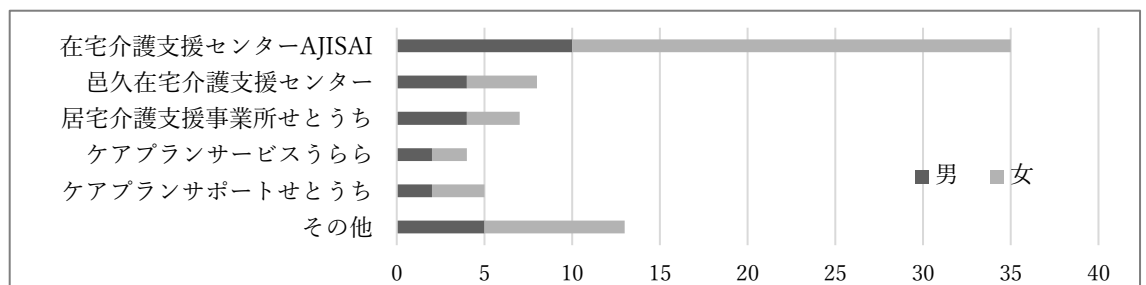
● 負担限度額（従来型・ユニット型 [上] 短期入所 [下]）



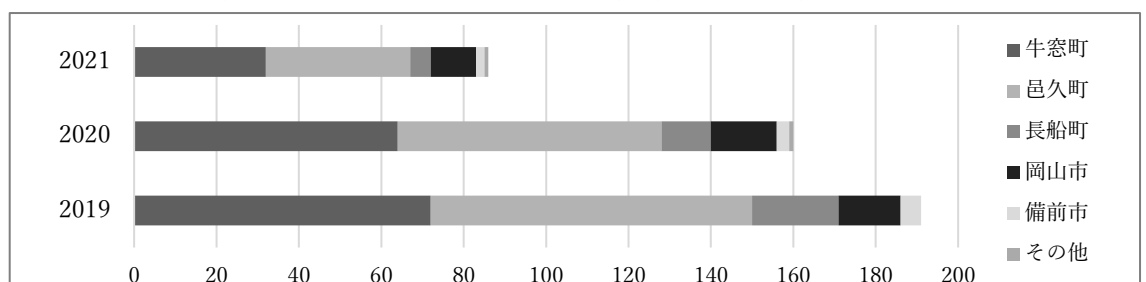
● 入所者保険者内訳（従来型・ユニット型）

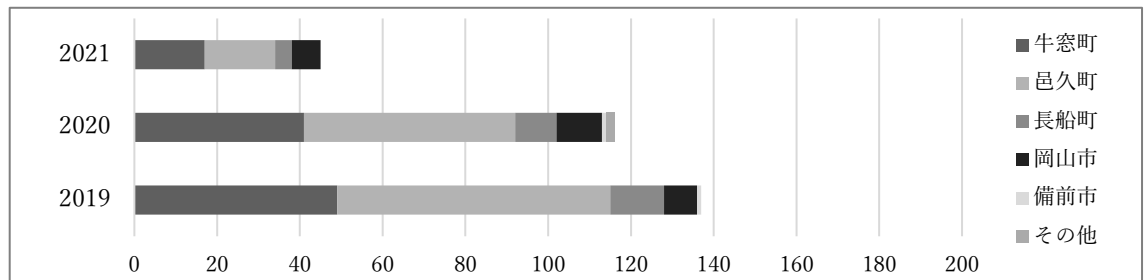


● 居宅介護支援事業所別 利用者数（短期入所）

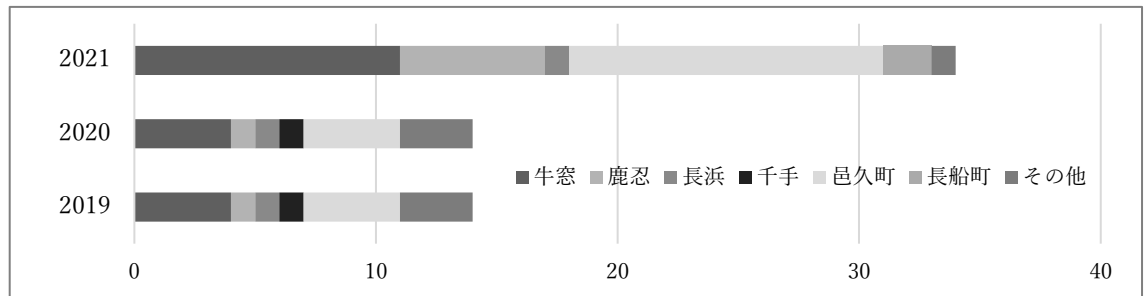


● 地区別 待機者数（従来型 [上]・ユニット型 [下]）（年度末時点）





● 地区別 新規利用者数（短期入所）

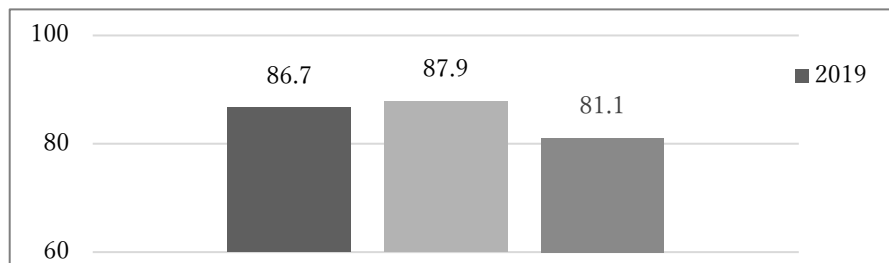


② ケアハウス紫陽花

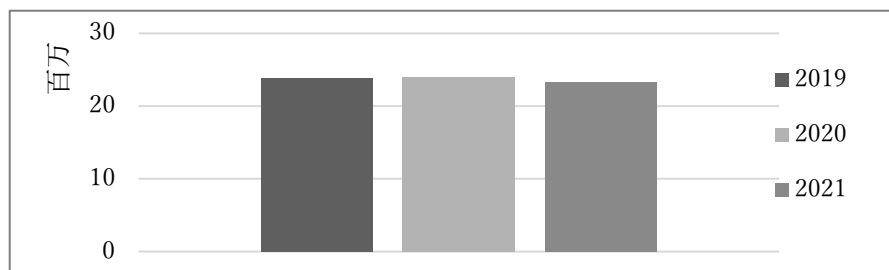
当年度も新型コロナウイルス感染症の影響にて、外出やレクリエーションなどの活動や面会も制限がかかり、サービス提供の変更を余儀なくされてきました。外食の代替としての TakeOut やレクリエーションの充実に努め、面会制限の解消のため、ホームページでのブログ更新などにて情報提供に努めてきました。

全体的に高齢化が進み、85～95 歳が大半を占め、入居期間も 2～3 年が多く、短縮の傾向となっております。

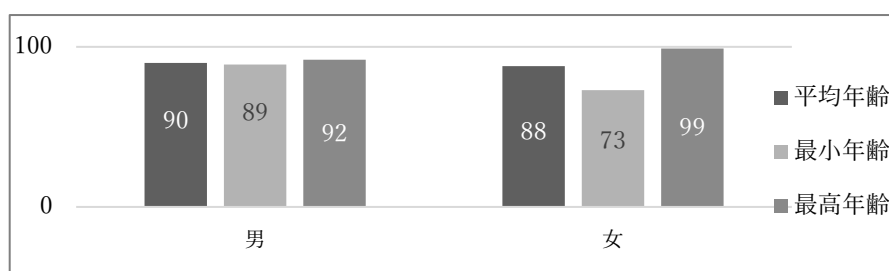
● 稼働率



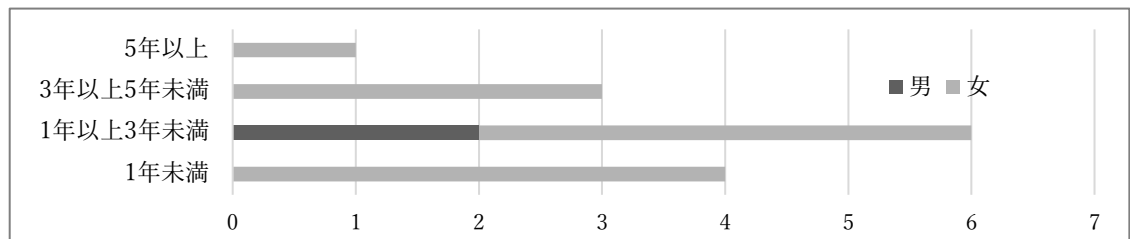
● 収入



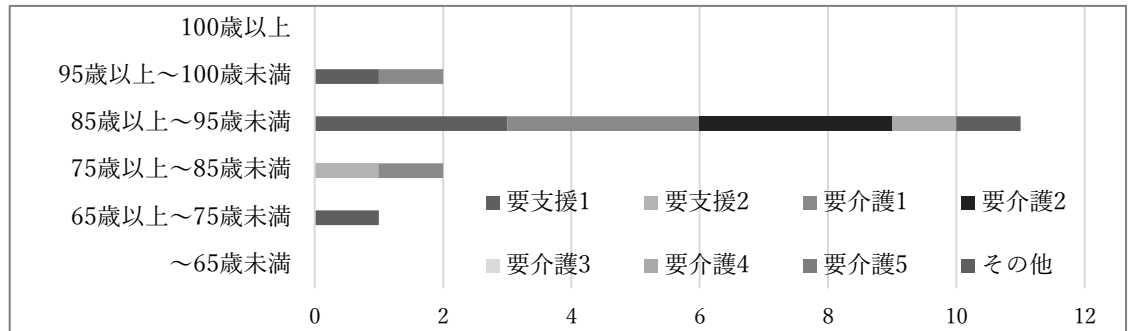
● 年齢



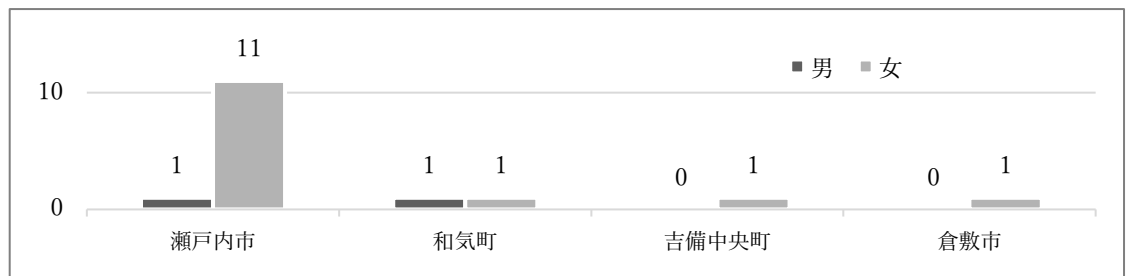
- 入所期間



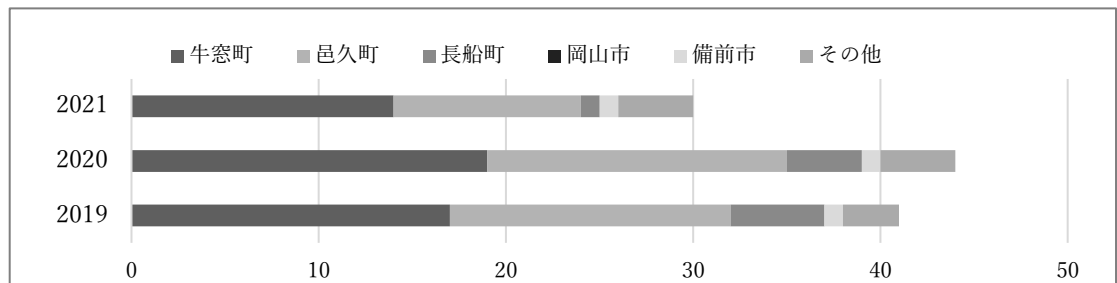
- 年齢別 要介護状態区分別 利用者数



- 入居者保険者内訳



- 地区別 待機者数（年度末時点）

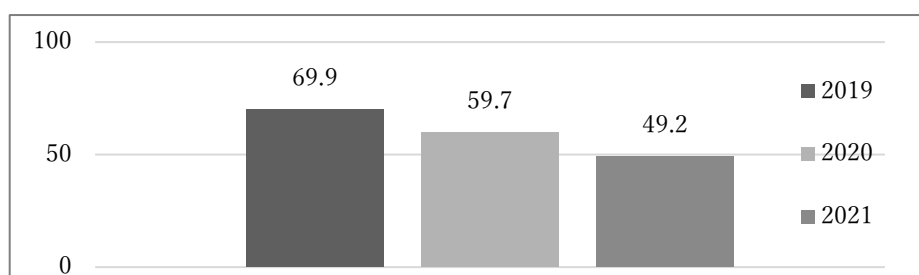


③ デイサービスセンターあじさい（通所介護・介護予防・日常生活支援総合事業）

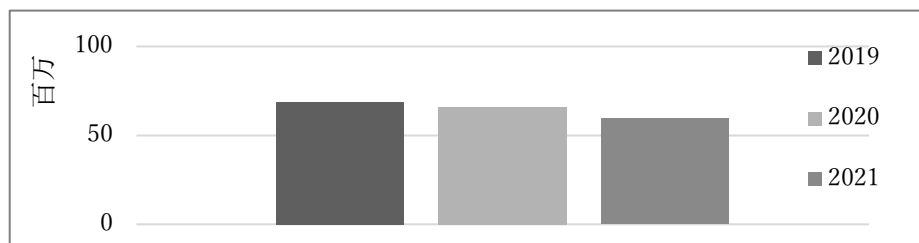
定員枠を増やしましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者の利用率は伸び悩んだ一年となりました。新型コロナウイルス感染症の発生が休館に至りましたが、最小限に抑制することができたと考えております。IoT化は、介護職員等の事務作業の負担軽減や超過勤務の削減にも繋がり、働きやすい職場づくりには取り組めたと考えております。

全体として、新規利用者の増加に反して全体利用者の減少、中でも男性利用者の減少が顕著となり、重度者の増加傾向がみられた年度となっております。

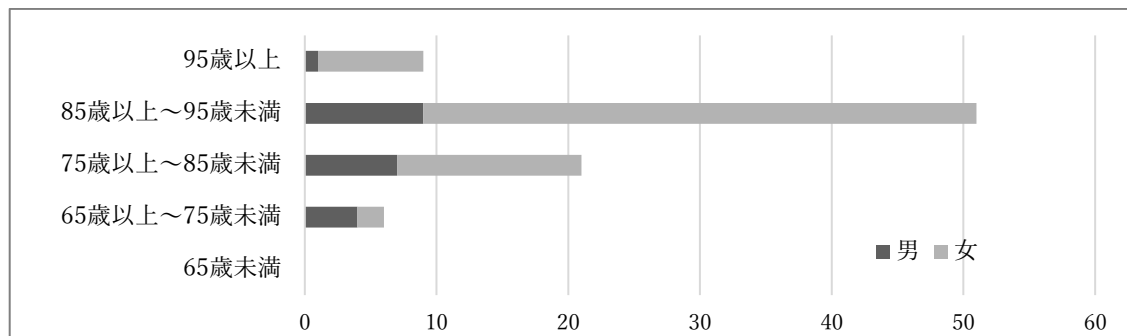
- 稼働率



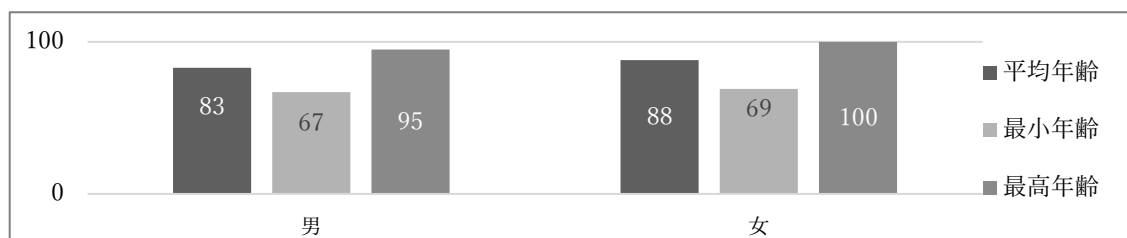
● 収入



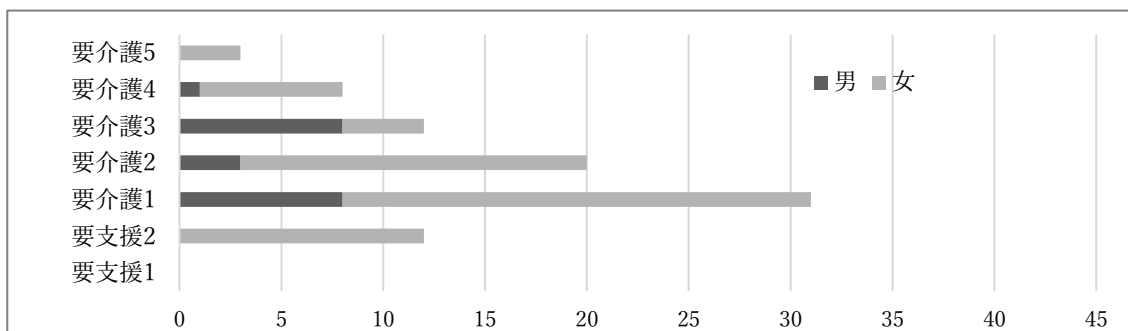
● 年齢別 利用者数



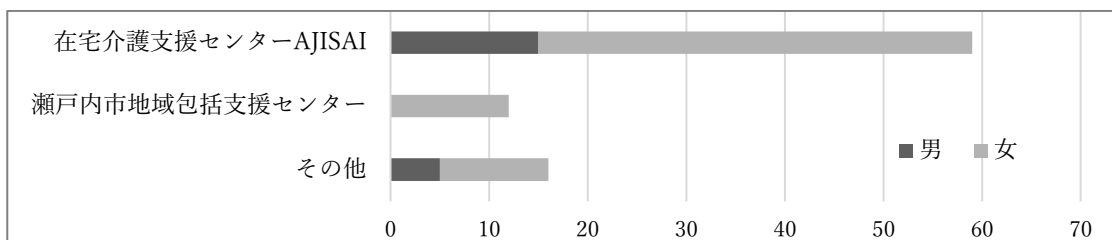
● 年齢



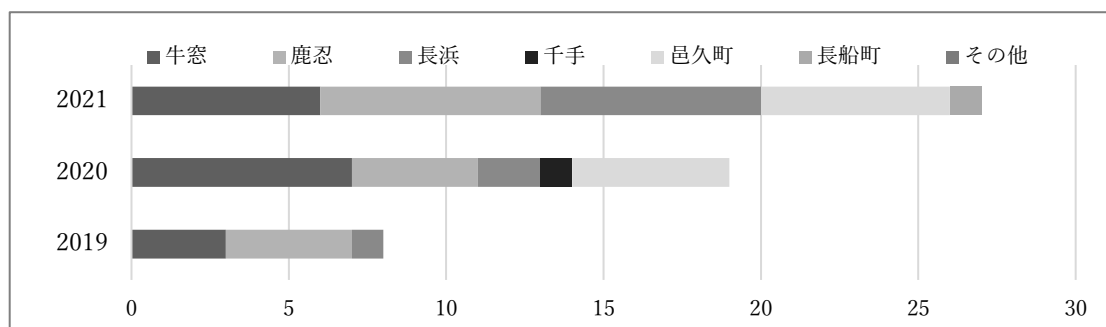
● 要介護状態区分別 利用者数



● 居宅介護支援事業所別 利用者数



● 地区別 新規利用者数

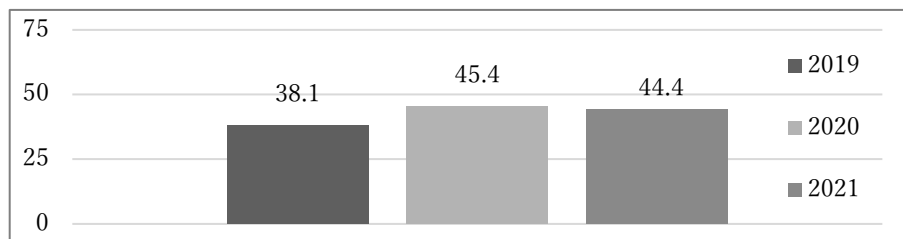


④ デイホームあじさい（認知症対応型通所介護）

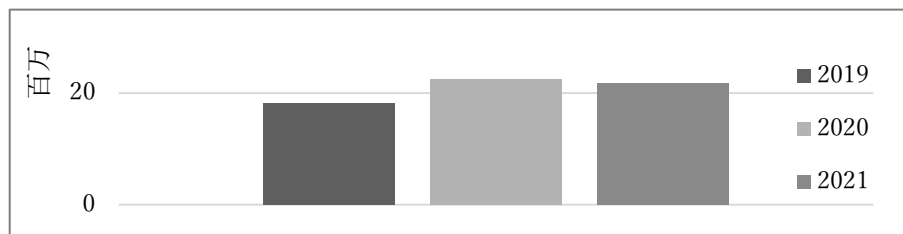
新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者の利用率は伸び悩んだ一年となりました。新型コロナウイルス感染症の発生が休館に至りましたが、最小限に抑制することができたと考えております。IoT化は、介護職員等の事務作業の負担軽減や超過勤務の削減にも繋がり、働きやすい職場づくりには取り組めたと考えております。

課題としましては、入所施設が多いことにより家庭での介護期間が短いため、新規利用者の継続確保が課題となっております。

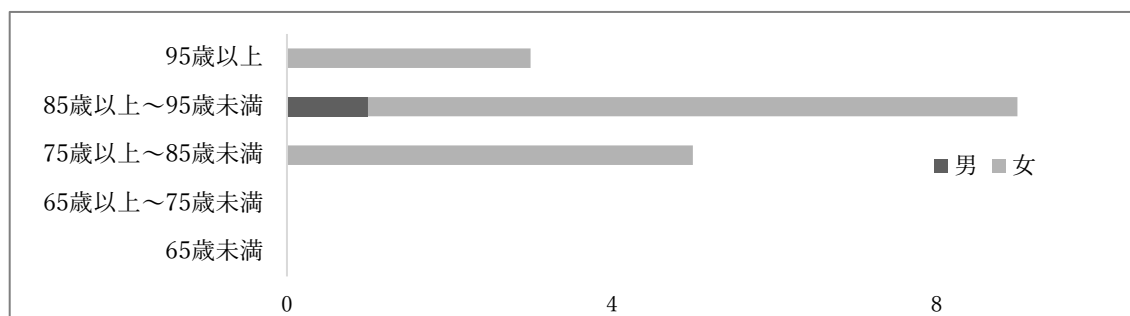
● 稼働率



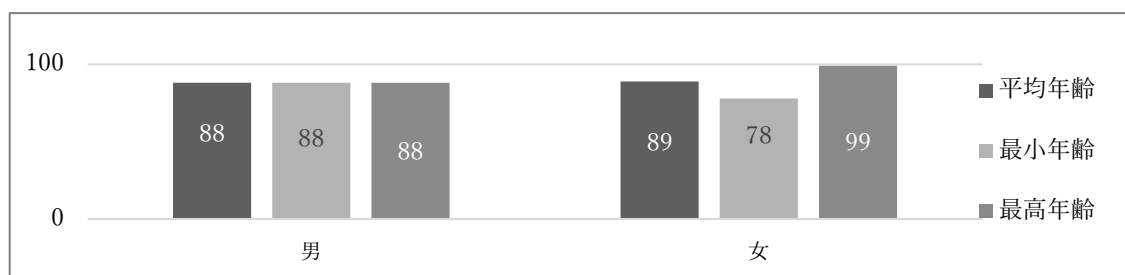
● 収入



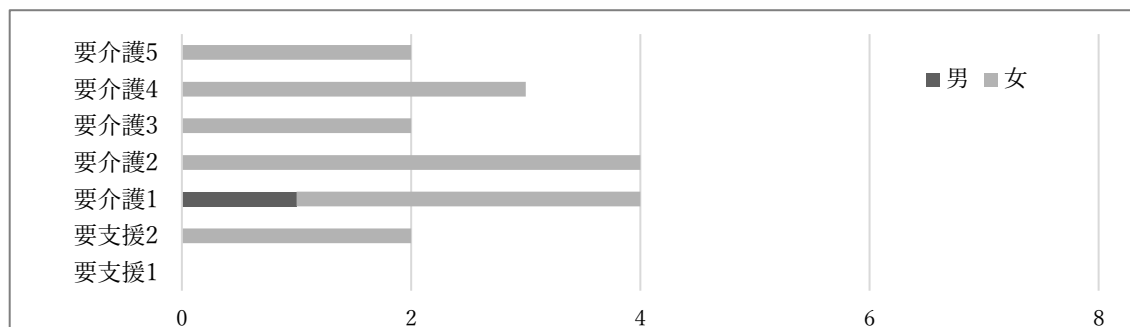
● 年齢別 利用者数



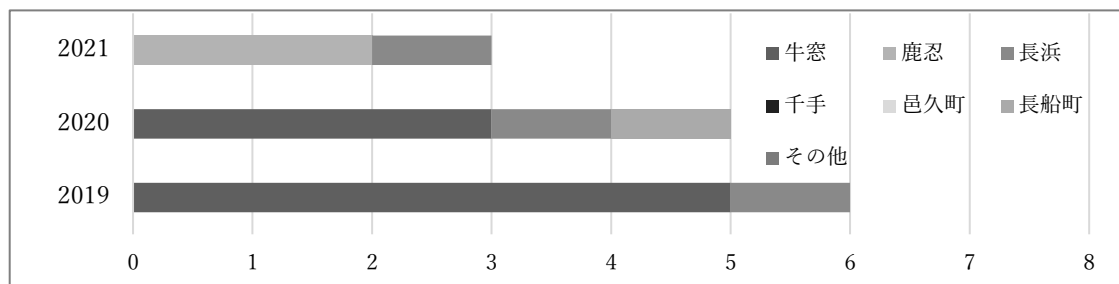
● 年齢



● 要介護状態区分別 利用者数



● 地区別 新規利用者数

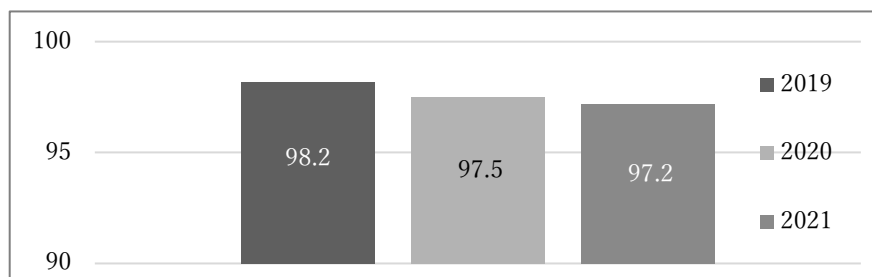


⑤ グループホームあじさい

介護保険制度改正に伴い自己評価制度を導入し、サービスの自己点検を行うこととなりました。新型コロナウイルス感染症の影響にて面会制限などもあることから、家庭の延長として支援を継続していくことを念頭に関わりを持てるように努めていくことが課題となっております。

介護職員の負担軽減のための IoT 化による業務プロセスの効率化、待機者の確保が課題となっております。

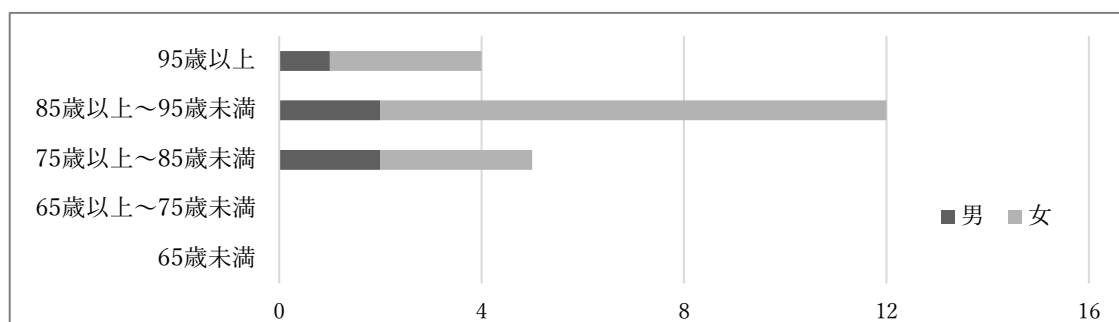
● 稼働率



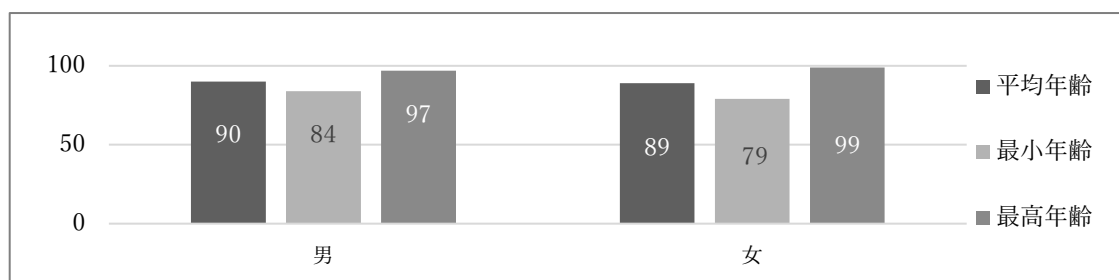
● 収入



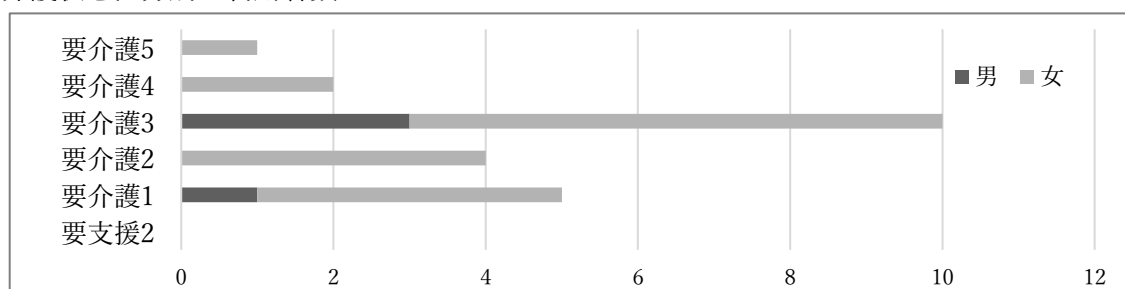
● 年齢別 利用者数



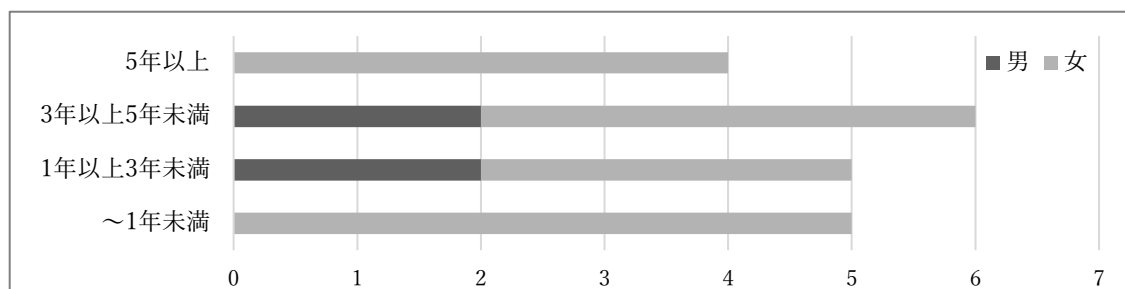
● 年齢



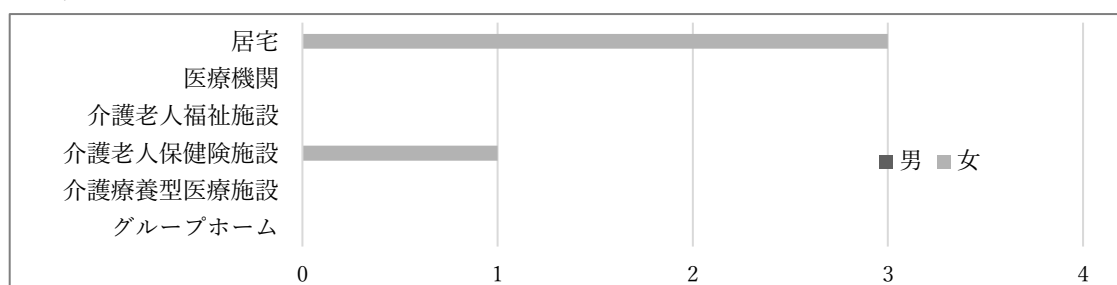
● 要介護状態区分別 利用者数



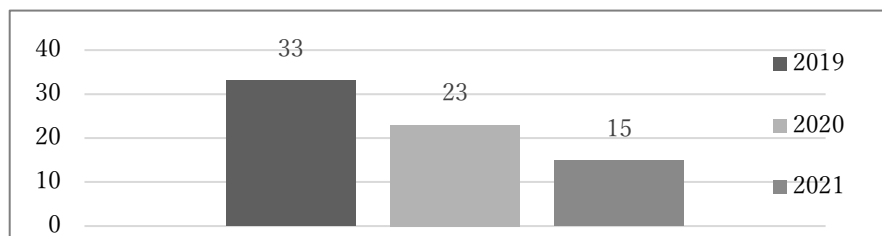
● 入所期間



● 入所前状況



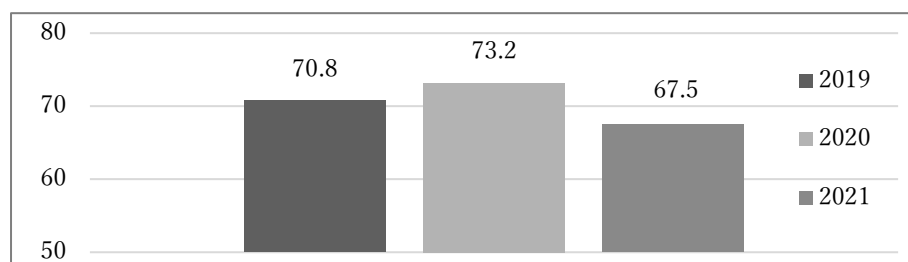
● 待機者数（年度末時点）



⑥ ヘルパーステーションあじさい（訪問介護・介護予防・日常生活支援総合事業）

在宅利用者の軽度化・地域における入所施設の増加などから利用率の向上が難しい事業体となっております。利用者の若年化の傾向がみられ、介護度も軽度化の傾向となっております。新型コロナウイルス感染症の影響にて、利用制限なども見られました。職員の確保ができない状況が継続しておりますが、こうした中で、最小人員で継続運営ができた年度となっております。

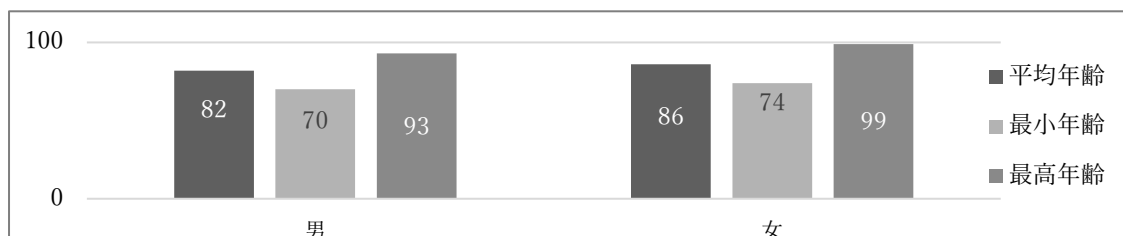
● 稼働率



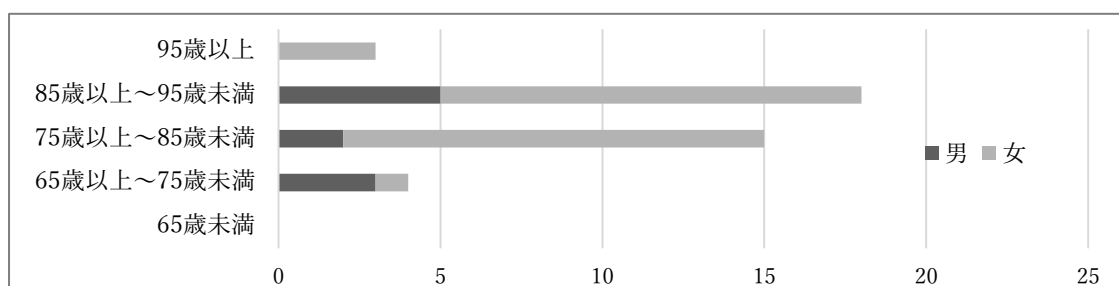
- 収入



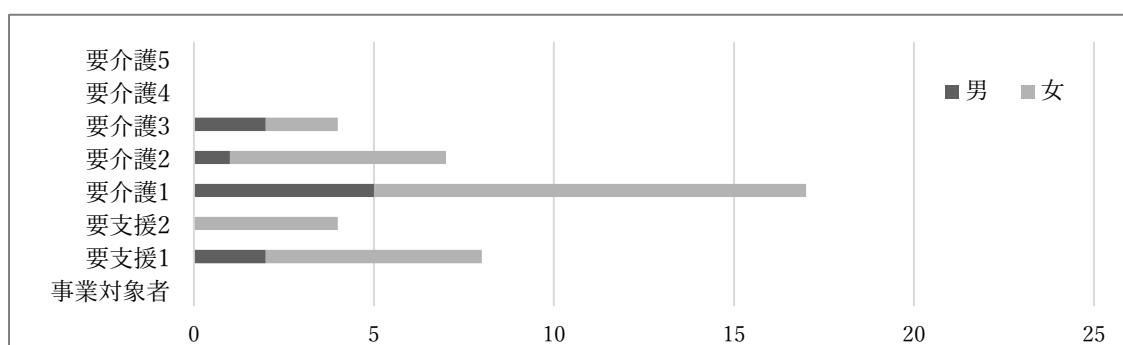
- 年齢



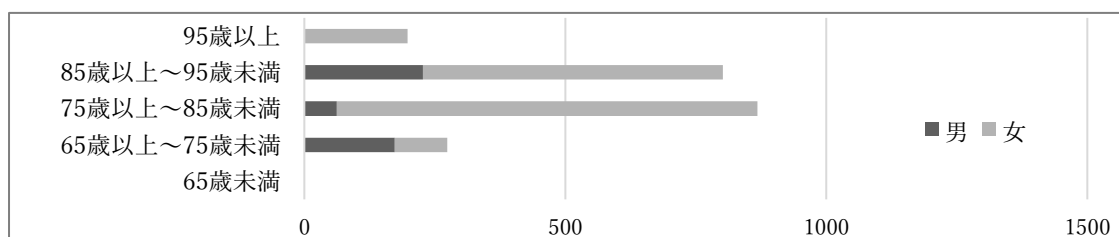
- 年齢別 利用者数



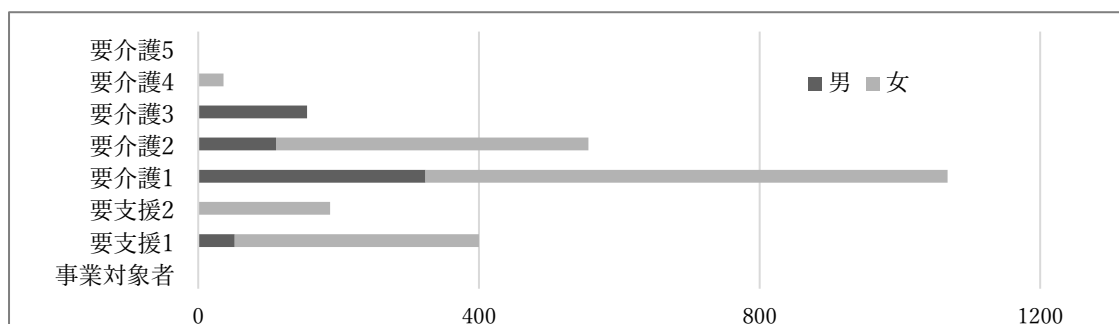
- 要介護状態区分別 利用者数



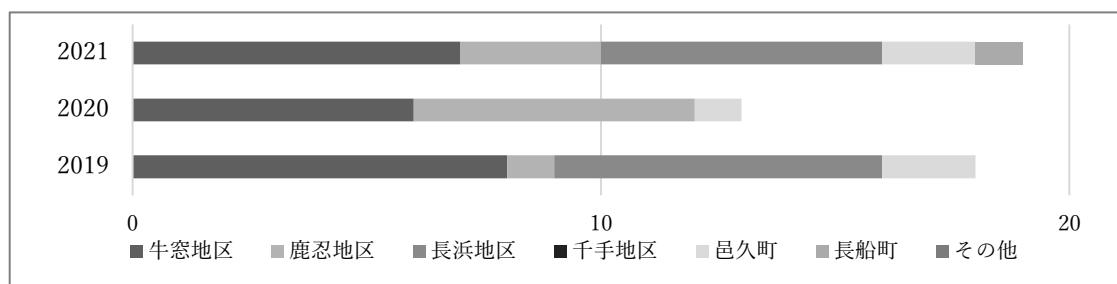
- 年齢別 訪問回数



- 要介護状態区分別 訪問回数



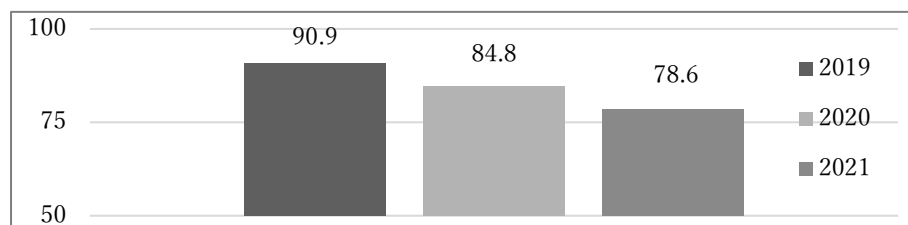
● 地区別 新規利用者数



⑦ グレースケアあじさい

新型コロナウイルス感染症の影響にて、様々なサービス提供に支障をきたし、外部との関わりもできない中で、感染対策を講じたサービス提供に努めてまいりました。瀬戸内市内の小規模多機能型事業所は、県内でも多い市であることや地域密着型サービスのため、市町村住民が要件であることも利用者の確保が厳しい状況となっております。併設されているサービス付き高齢者向け住宅の住所地特例なども活用した利用者の確保、特色あるサービスの提供や事業所情報を介護支援専門員や関係事業所への情報発信の強化が新規利用者の確保に繋がるものと考えております。

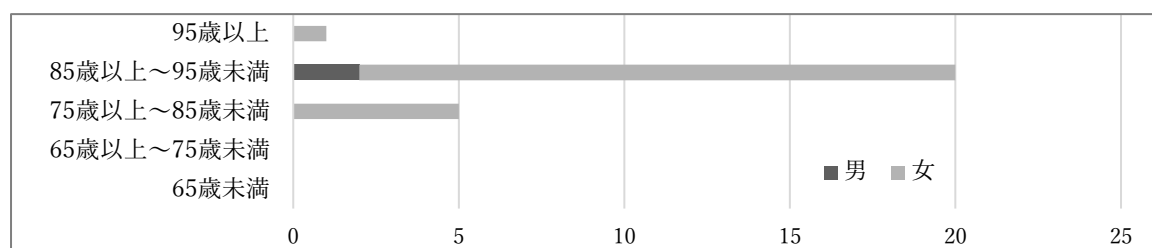
● 稼働率



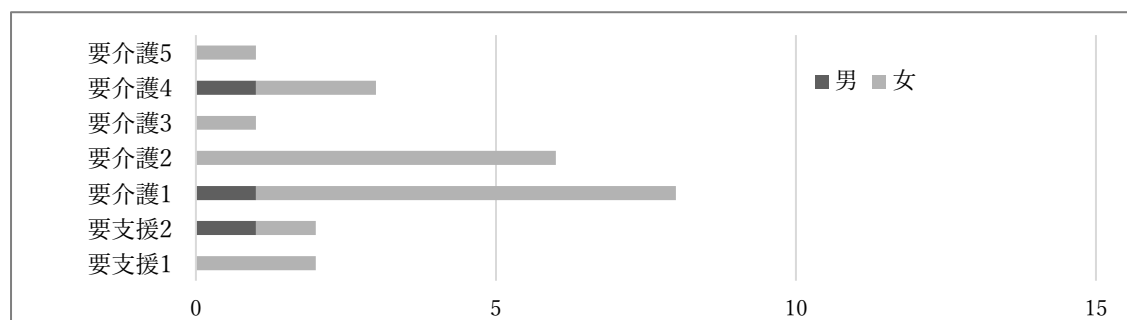
● 収入



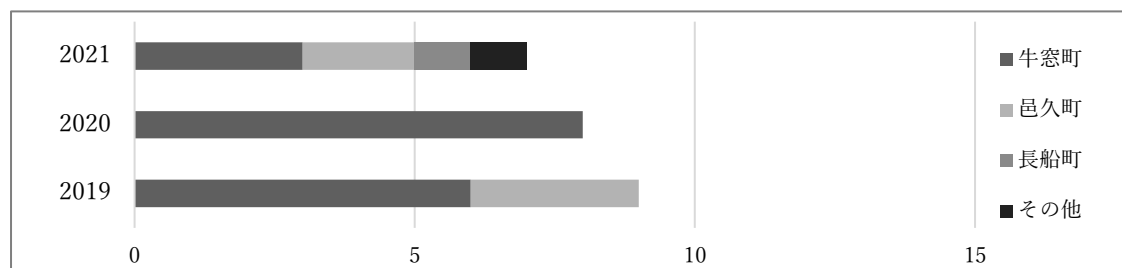
● 年齢



● 要介護状態区分別 利用者数



● 地区別 新規利用者数

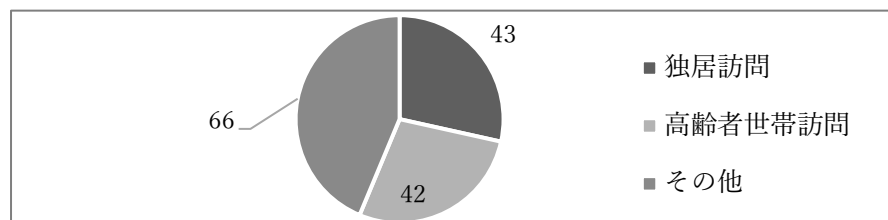


⑧ 在宅介護支援センターAJISAI（地域包括支援センターランチ）

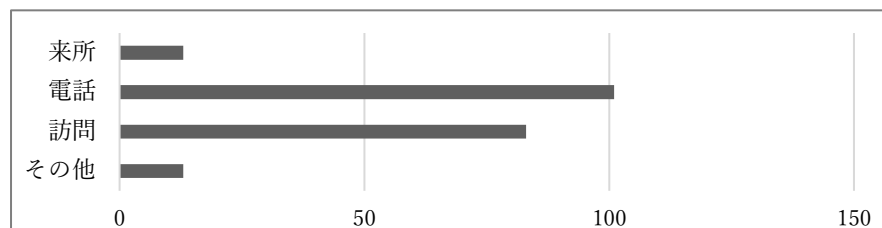
新型コロナウイルス感染症の影響にて、地域活動の多くが中止となり、地域でのサロン活動も同様でありました。地域の民生児童委員をはじめ地域での活動をされている方の活動が、制限されていることも住民ニーズの把握に支障をきたしております。

当事業の活動は、法人全体のPRにもなっているため、引き続き多くの情報発信と情報収集をしていくことが重要であると考えられます。

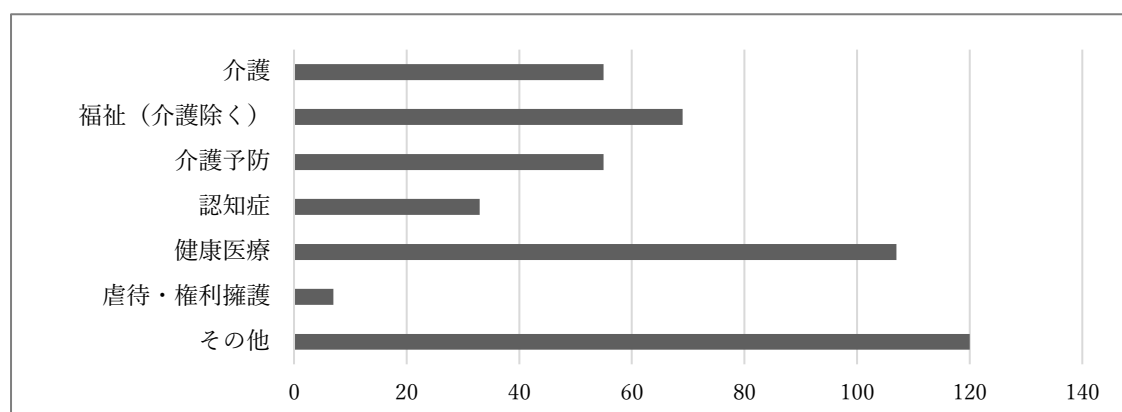
● 実態把握



● 相談形態内訳



● 相談内容内訳



● 展示物無料貸出

品目	件数	貸出理由
車椅子	4	ワクチン接種、外出

2. 公益事業

① 在宅介護支援センターAJISAI（あじさい）（居宅介護支援事業所）

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響にて、自宅や医療機関等への訪問活動を

中心としている事業所にとって、様々な制限のかかる1年となりました。

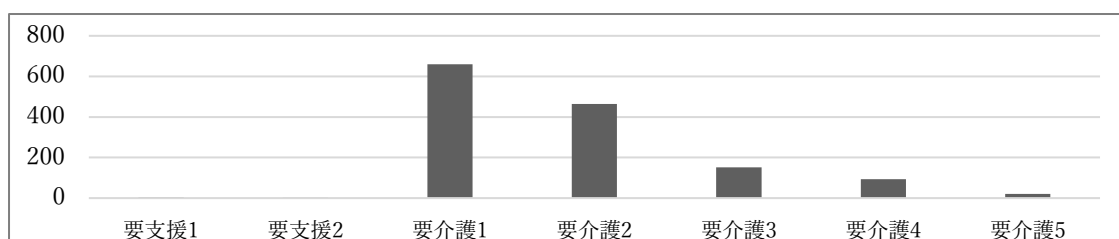
利用者の軽度化、長浜地区の減少と邑久地区の増加が顕著な1年となっております。そして、年度末には、地域包括支援センターからの予防マネジメントの委託も行うこととなりました。

介護保険法の理念に沿い利用者本位のケアマネジメントに努めていくことが重要となっております。電子カルテを活用し、業務省力化、業務プロセスの効率化を図り、介護支援専門員の事務負担軽減、ガバナンスの強化に努めてまいりたいと考えております。

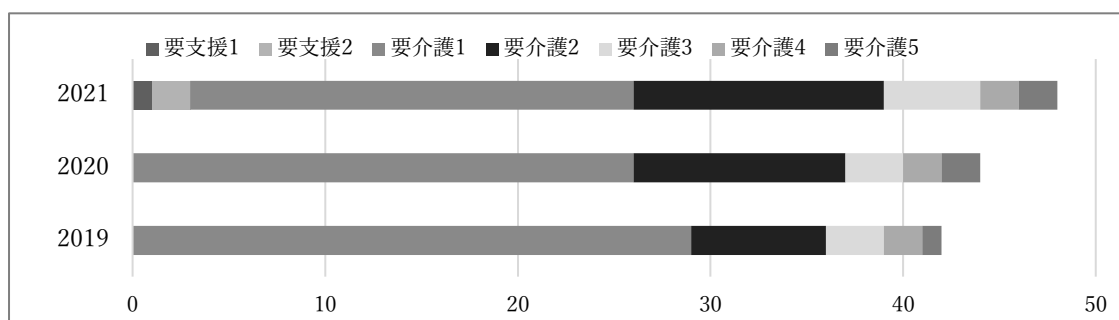
● 収入



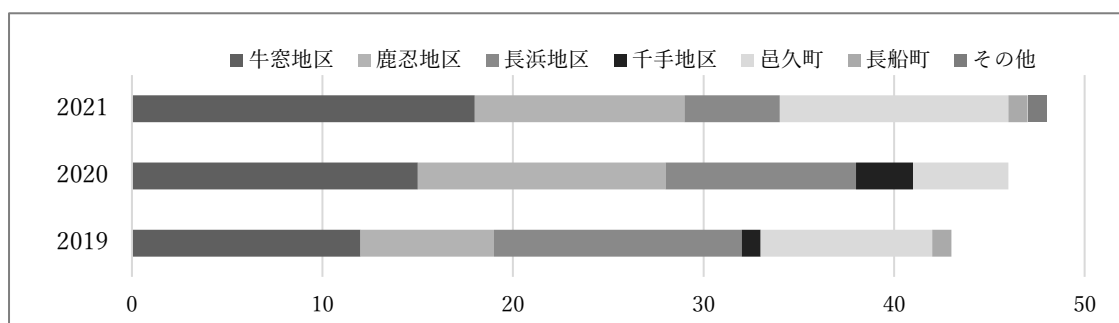
● 要介護状態区分別 延べ利用者数



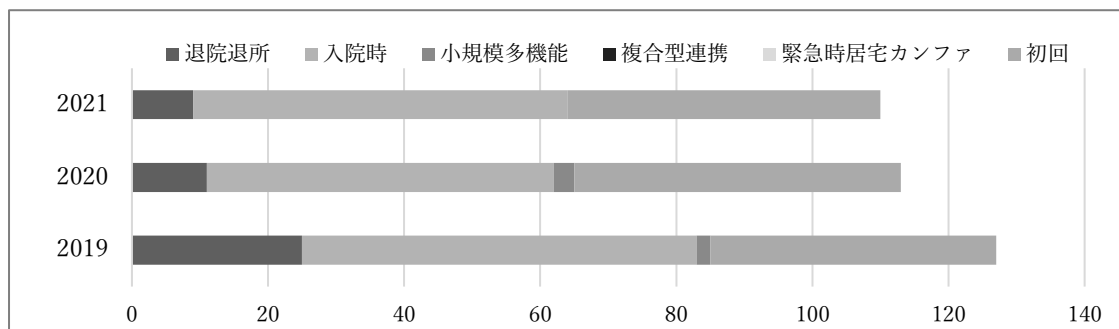
● 要介護認定区分別 新規利用者数（重複あり）



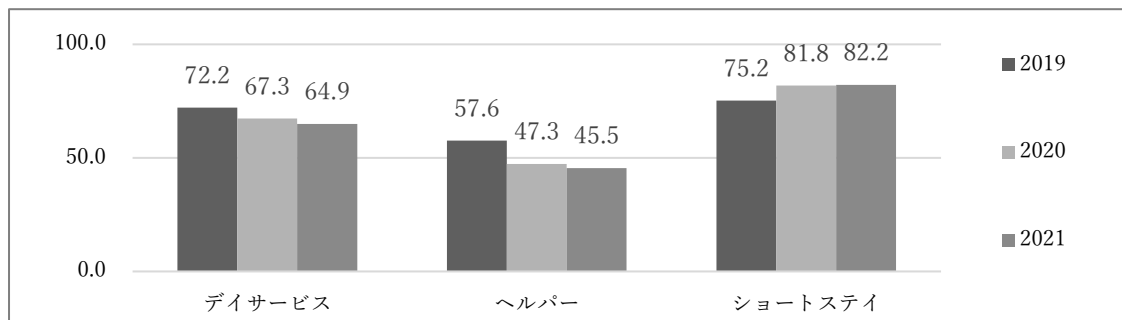
● 地区別 新規利用者数



● 各種加算取得内訳



● 法人内事業所 特定事業集中減算適用率



② 福祉移送サービスあじさい（福祉有償運送事業）

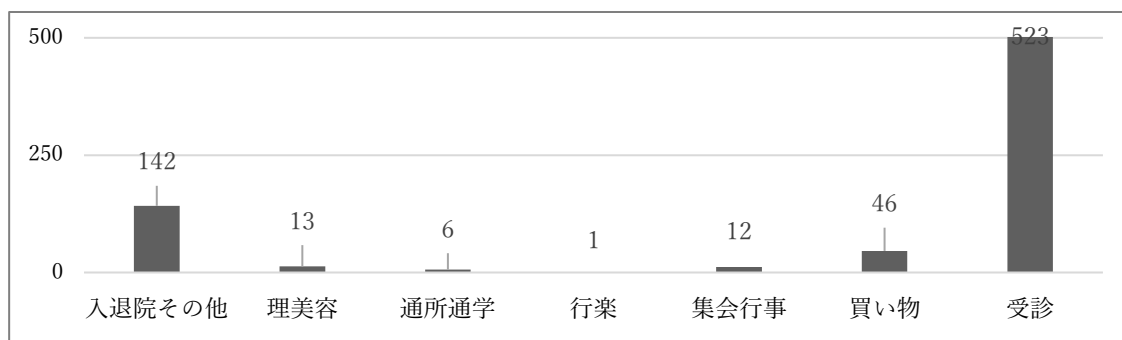
昨年度下半期から瀬戸内市によりチケット制の導入、新型コロナウイルス感染症の影響による交通手段の減少などもあり、受診や入退院の搬送が大幅に増加しました。結果として一昨年利用料対象者を限定させたことにより収入の減少とはなりましたが、以前の水準に回復しました。

交通の便の悪い牛窓地区は、移送のニーズは高い状況が続いております。引き続き感染対策を徹底して、社会参加の一助として利用いただけるように努めていくことが必要であると考えられます。

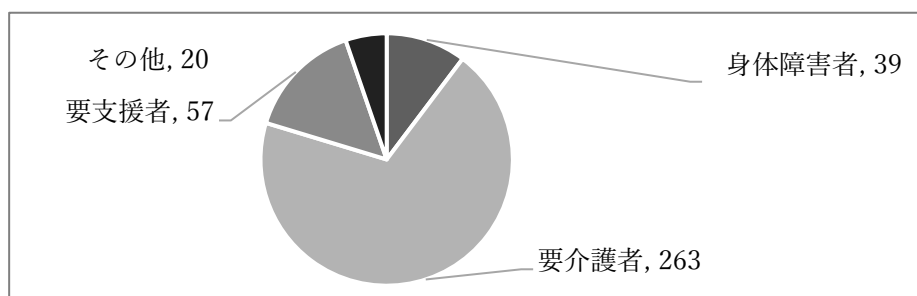
● 収入



● 利用用途



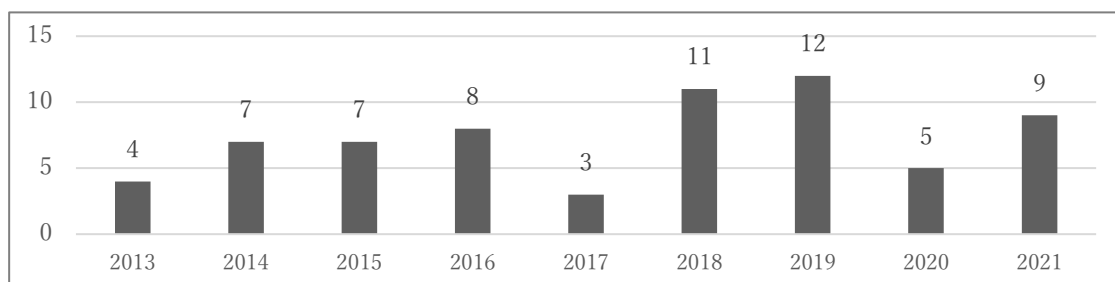
● 区分別 利用者数



③ 介護職員初任者研修事業

平成 25 年より開講し、毎年少人数ではありますが将来の人材確保と地域福祉の向上に努めてまいりました。職員の資格取得支援、就職、保育所の利用にも繋がるケースもあり、地域貢献、福利厚生には繋がっていると考えております。

● 受講生数



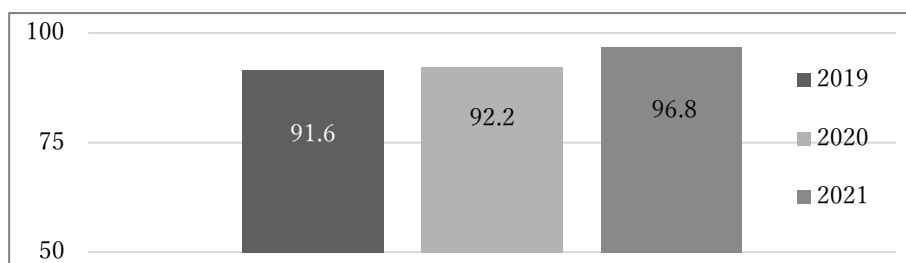
④ グレースコートあじさい（サービス付き高齢者向け住宅）

住まいのあり方が多様化する中で、利用者の一時的な住まいとして活用されている現状であります。市内の施設数の増加により、利用者の確保が厳しくなっている状況が続いております。

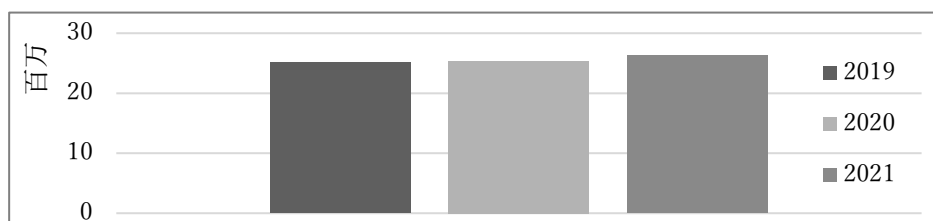
新型コロナウイルス感染症の影響にて、外出や家族の来館・面会などにも制限がかかり、利用者及び家族にも支障をきたしておりましたが、レクリエーション活動を充実させ、日常生活の充実と筋力低下予防にも繋がっているものと考えております。

新規利用者の確保について、ホームページ等を活用した情報提供も課題となっております。

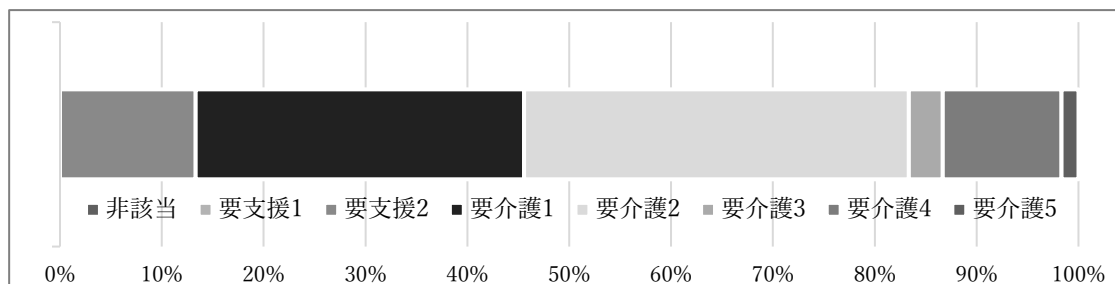
● 稼働率



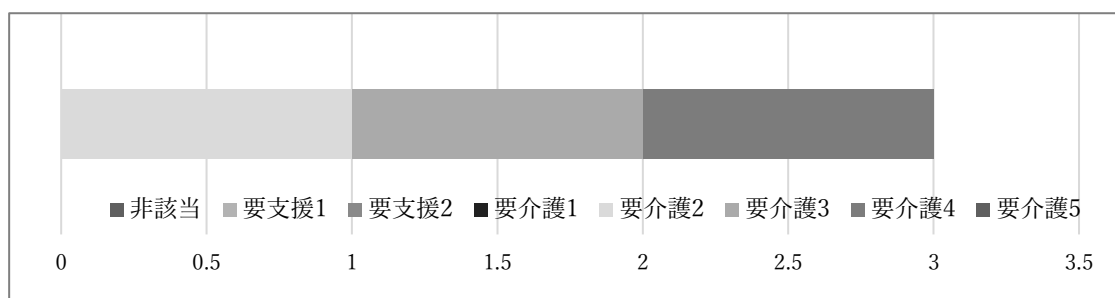
● 収入



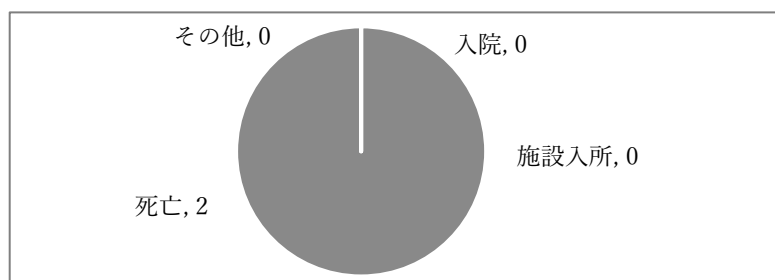
● 要介護認定区分別 利用者延数割合



● 要介護認定区分別 新規利用者数



- 退居理由

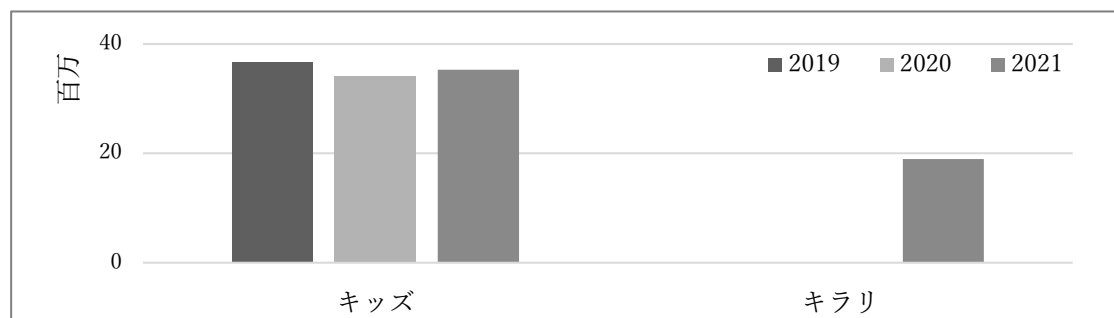


⑤ キッズあじさい・キラリあじさい（企業主導型保育事業）

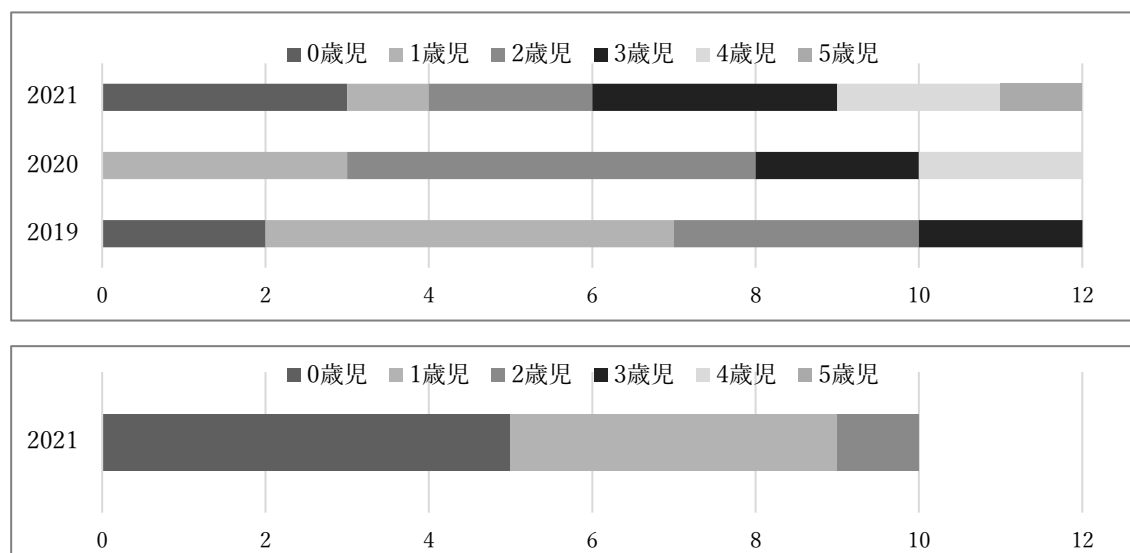
当年度も新型コロナウイルス感染症の影響にて、高齢者との交流に制限がかかることになりました。9月にはキラリあじさいがオープンし、全面電子化をすることで、保育士の事務負担軽減や保護者の負担軽減にも繋がることとなりました。

感染対策として、写真のネット販売、ホームページ、ブログ等を活用した保護者への情報提供にも努めてまいりました。リトミックなどの中止や子どもたちへのマスク着用、定期的な消毒、換気などの感染対策も保育士の負担となった1年となりました。結果、子どもたちは、昨年度に引き続き風邪等の症状も少なく健康管理に努めることができました。

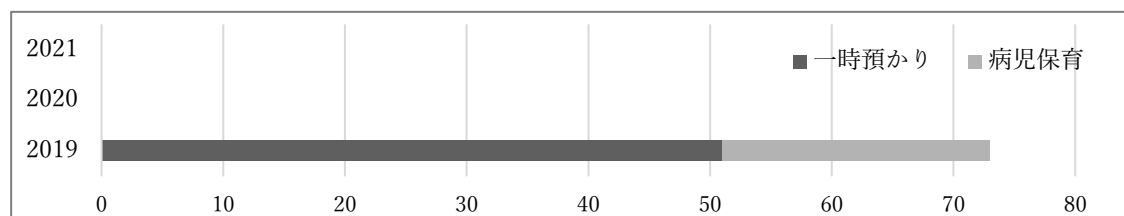
- 収入



- 定期・不定期 延べ児童内訳（上段：キッズ 下段：キラリ）

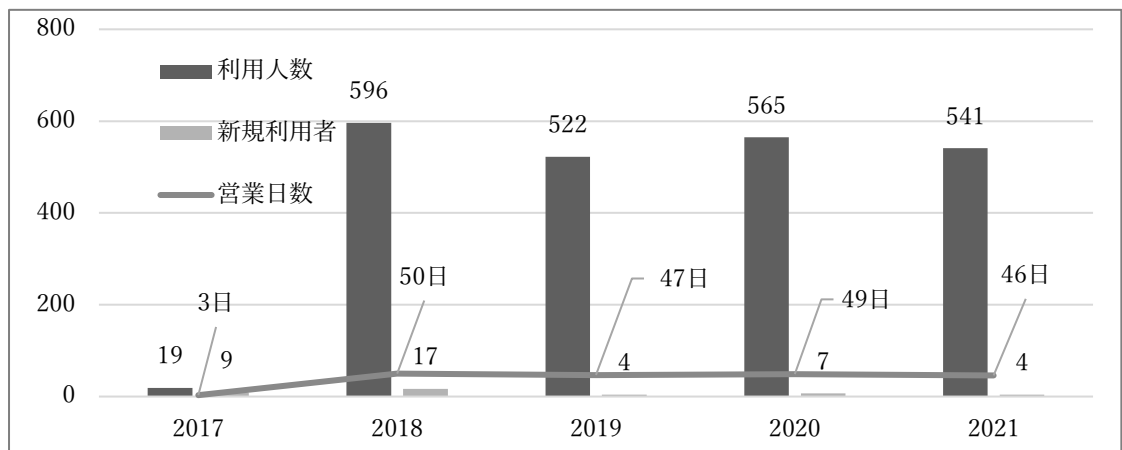


- 一時預かり・病児保育（キラリ該当なし）



3. その他法人全体にかかわる事業

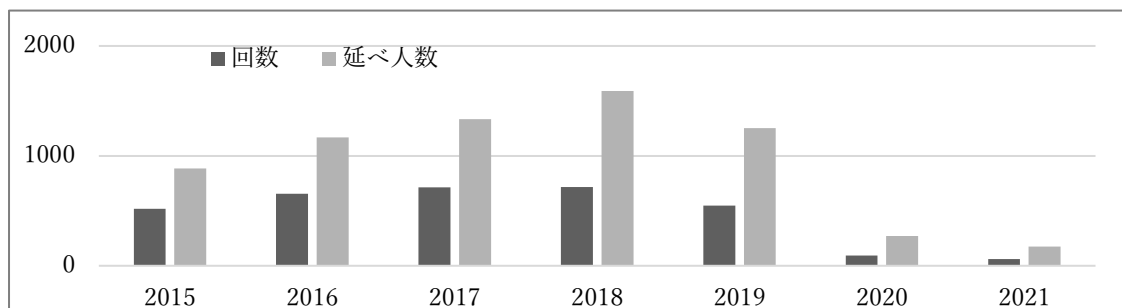
- ① **ヘルスケアセンター**：介護保険対象者以外の健康増進のためのサービス提供に努めてまいりました。



- ② **あじさい納涼夏祭り**：コロナの影響で縮小（事業所単位で開催）
 ③ **喫茶うしまだ**：月2回特別養護老人ホーム3Fラウンジでの喫茶店を開店
 ④ **カフェあじさい**：グレースケア1Fでの地域住民とのカフェはコロナの影響で中止
 ⑤ **サロン活動・施設見学**：地域の公民館等にて住民に向けた研修会もコロナで縮小

日時	地区・サロン名	内容	参加者数
R4.1.13	上区五月会	レクリエーション	9名

- ⑥ **あじさいホールの活用**：コロナの影響でヘルスケア以外はほぼ中止。
 ⑦ **ボランティアの受入**：コロナの影響で受入中止等により活動数は減少となった。



⑧ 主な会議

新型コロナウイルス感染症対策として、主な会議はZOOMによるオンライン会議で開催することとなりました。他会議等についても、ZOOMや三密を避けた会議等で対応してまいりました。

名称	頻度	主な内容	参加者
運営会議	週1回	運営及び人事等	理事長・施設長・事務部長・各部長補佐
連絡会議	週1回	週間行事確認 運営会議・他会議内容報告等	各事業所より1名以上
施設部会議／在宅部会議	月1回 月1回	新規利用者報告 身体拘束適正化委員会・ICT委員会 リスクマネジメント委員会（事故苦情）	施設部会議（特養職員）

		OJT 委員会・業務改善・環境整備 広報・腰痛機器・サービスメニュー マニュアル確認・ボランティア他	在宅部会議（特養 以外職員）
栄養部会議	月 1 回	設備管理、食事メモ、業務調整他	施設長・管理栄養 士・調理員
相談員会議	月 1 回	リスクマネジメント委員会 OJT 委員会・広報・サービスメニュー マニュアル確認・防災管理 就職セミナー・ボランティア 福利厚生他	施設長・生活相談 員
介護職員会議	月 1 回	事故苦情報告・OJT 委員会 サービスメニュー・マニュアル確認 EPA 介護福祉士候補生等受入調整他	施設長・介護職員
医療職員会議	月 1 回	感染対策委員会 安全委員会（喀痰吸引） 衛生管理委員会（労働安全衛生） 給食委員会・口腔ケア・リハビリ OJT 委員会他	施設長・看護師・管 理栄養士・理学療 法士・作業療法士・ 歯科衛生士
※その他事業所別会議、カンファレンス等も定期・随時開催			

⑨ 研修

新型コロナウイルス感染症の影響にて外部研修の多くは中止となり、年度途中よりオンライン研修等が増え、オンラインでの参加を基本に取り組んでまいりました。内部研修につきましても、三密を避けるため、法人全体研修等多くのスタッフが集うものは中止または書面や動画視聴研修、事業所単位での内部研修は書面での研修にて対応してまいりました。

■ 外部研修 計 56 件 74 名参加

■ 内部研修

新人研修 採用時施設長より説明（オリエンテーション）

自主研修 年 1 回 「専門職・組織人として目標と振り返り」

事業所研修（全事業所）

4 月	防災教育～非常災害時等	資料作成：相談部
5 月	認知症～認知症ケア・BPSD について	資料作成：介護部
6 月	食中毒について	資料作成：介護部
7 月	KYT～危険予知訓練	資料作成：看護部
8 月	上半期振り返り	
9 月	権利擁護～高齢者虐待と身体拘束	資料作成：相談部
10 月	防災教育～非常災害時	資料作成：相談部
11 月	結核・感染予防～感染症について	資料作成：看護部
12 月	KYT～危険予知訓練	資料作成：介護部
1 月	下半期振り返り	
2 月	接遇	資料作成：三石施設長
3 月	看取り～ターミナルケア・終末期のケア	資料作成：看護部

全体研修

4 月	法令遵守・事業計画等 講師：三石施設長	
6 月	新型コロナウイルス感染対策研修 講師：三石施設長	
8 月	喀痰吸引研修 手技確認等 新型コロナウイルスの影響で確認テストに置換	
2 月	喀痰吸引研修 手技確認等 新型コロナウイルスの影響で確認テストに置換	
3 月	認知症研修（認知症ケアに必要なアップデート研修） 講師：オレンジドア代表 丹野智文氏 きのこ老人保健施設施設長 宮本憲男氏	43 名
随時	新型コロナウイルス感染症に関する資料・作成配布	